

平成28年度 第5回

希望郷いわてモニターアンケート
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

I アンケート調査の概要

1 調査課題名
食の安全安心及び食育に関する意識調査

2 調査の目的

岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。

3 調査期間
平成29年1月19日（木）から2月3日（金）まで

4 調査方法
調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象
平成28年度希望郷いわてモニター 279名

6 回答者数
222名

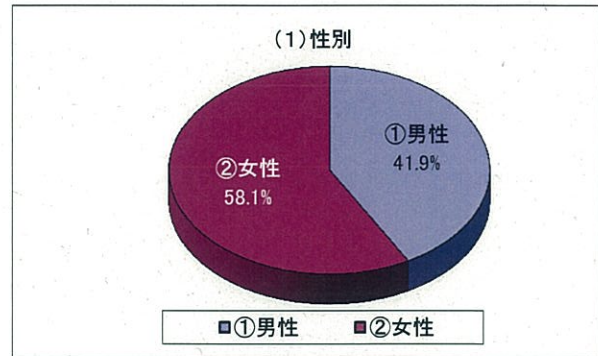
7 回答率
79.57%

Ⅱ アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業区分についてお聞かせください。

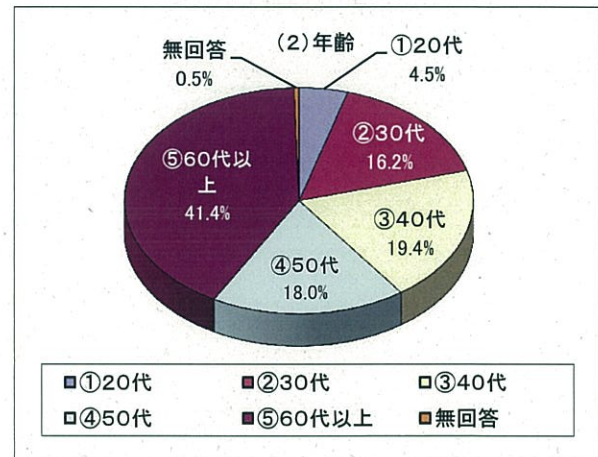
(1) 性別

①男性	93
②女性	129
計	222



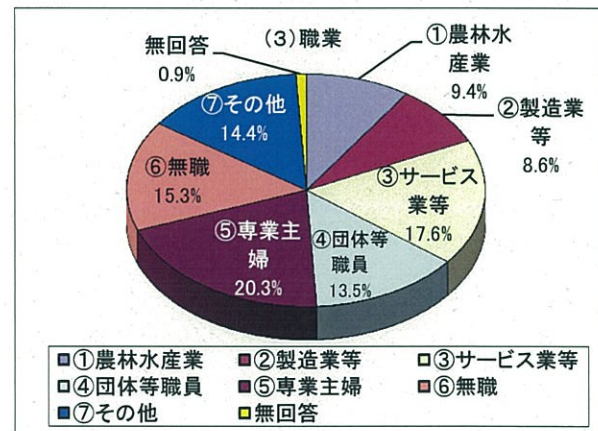
(2) 年齢

	合計	男性	女性
①20代	10	1	9
②30代	36	16	20
③40代	43	13	30
④50代	40	14	26
⑤60代以上	92	48	44
無回答	1	1	0
計	222	93	129



(3) 職業

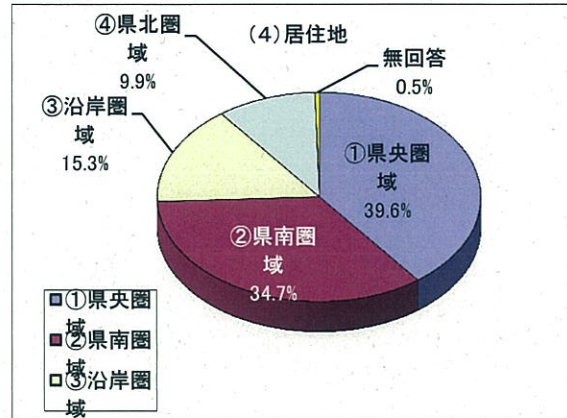
	合計	男性	女性
①農林水産業	21	15	6
②製造業等	19	15	4
③サービス業等	39	15	24
④団体等職員	30	13	17
⑤専業主婦(主夫)	45	1	44
⑥無職	34	22	12
⑦その他	32	11	21
無回答	2	1	1
計	222	93	129



※「その他」の内訳: アルバイト、パート、建設業、自営業、福祉関係、他

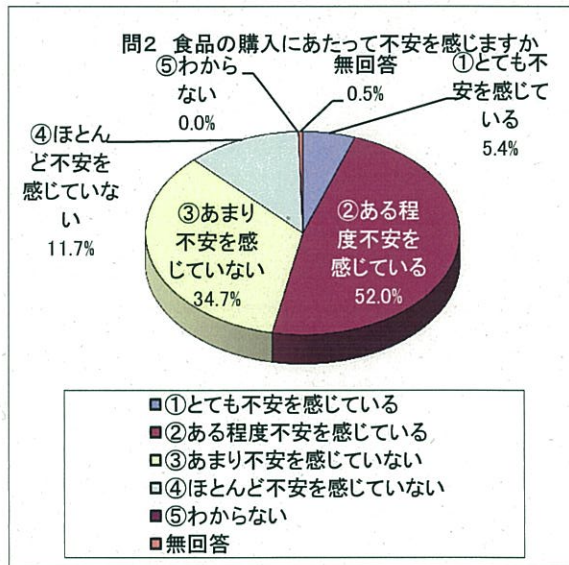
(4)居住地

①県央圏域	88
②県南圏域	77
③沿岸圏域	34
④県北圏域	22
無回答	1
計	222



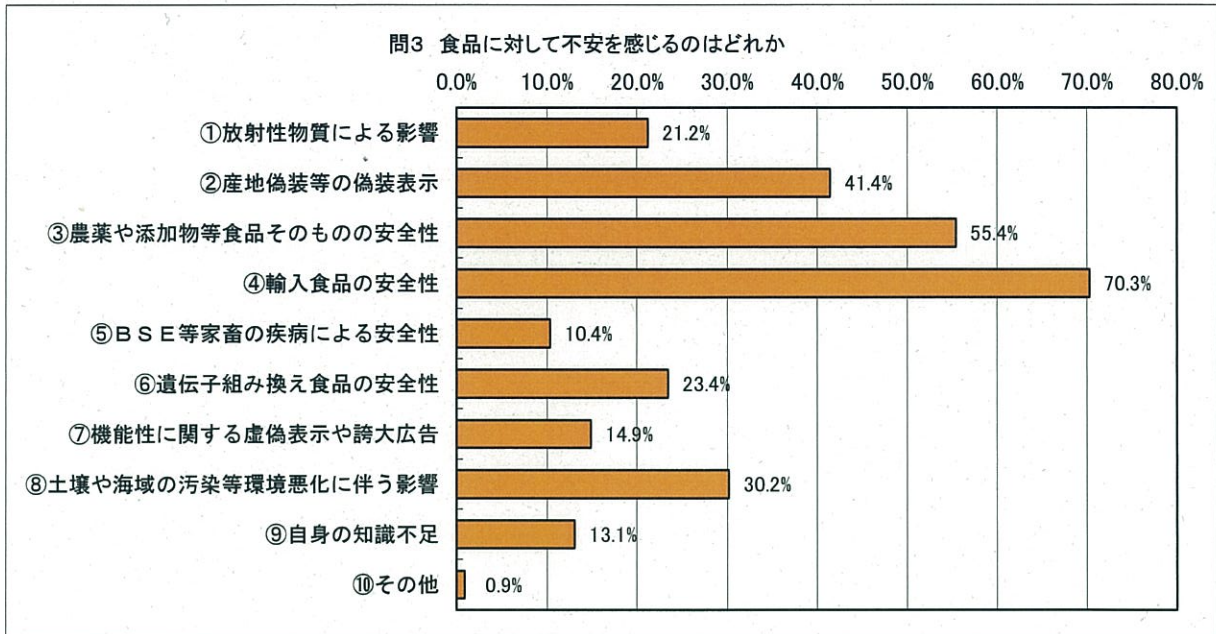
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	12
②ある程度不安を感じている	106
③あまり不安を感じていない	77
④ほとんど不安を感じていない	26
⑤わからない	0
無回答	1
計	222



食品購入に当たって不安を感じている人は53.1%を占めており、不安を感じない人の46.4%を上回っている。また、前回(平成28年2月調査。以下同じ)の59.4%から減少している。

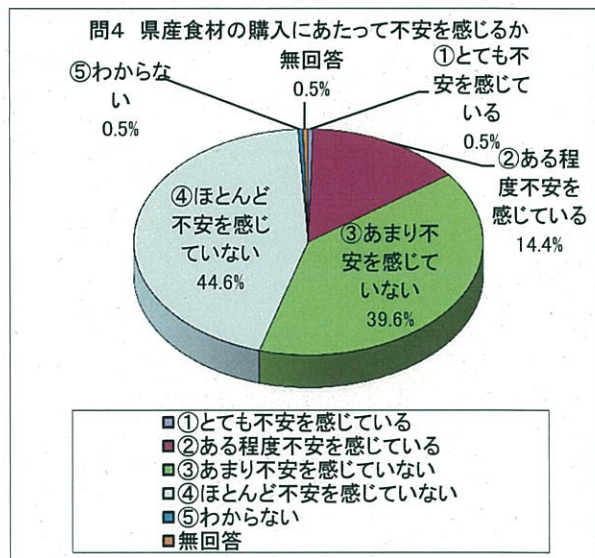
問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



不安を感じる理由は、前回調査と同様に④輸入食品の安全性(70.3%、前回64.4%)が最も多く、次いで③農薬や添加物等食品そのものの安全性(55.4%、前回57.7%)、②産地偽装等の偽装表示(41.4%、前回51.0%)の順となっている。
 なお、①放射性物質による影響は21.2%と、前回(25.1%)よりも減少している。

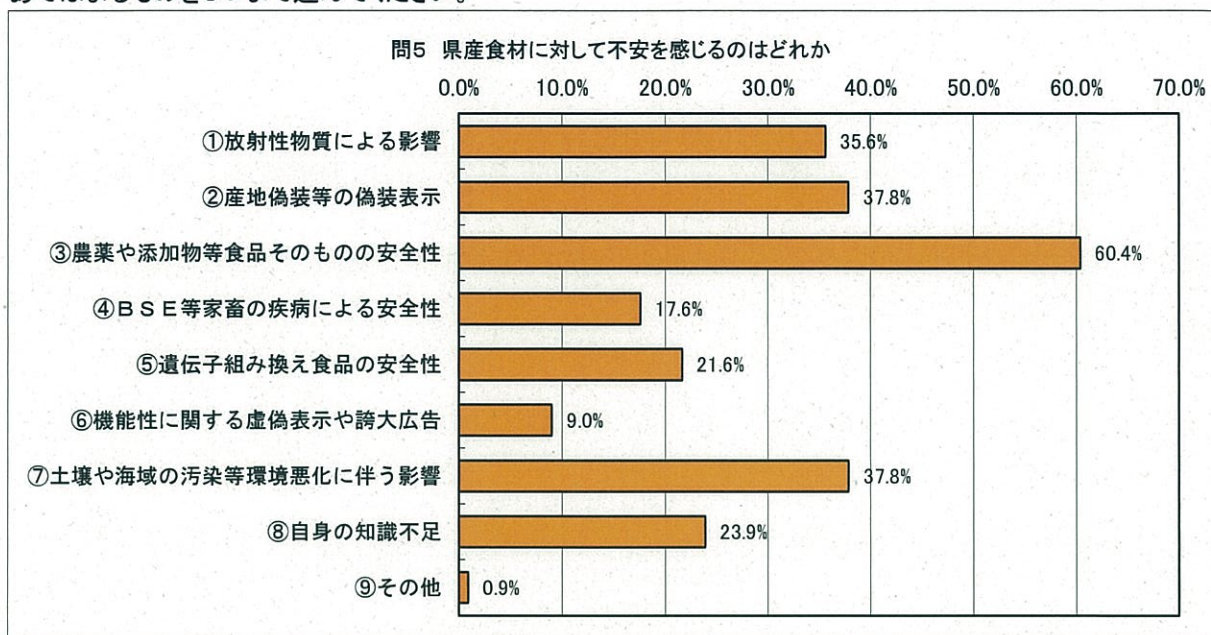
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	1
②ある程度不安を感じている	32
③あまり不安を感じていない	88
④ほとんど不安を感じていない	99
⑤わからない	1
無回答	1
計	222



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は14.9%(前回20.5%)となっており、不安を感じない人の84.2%(前回78.2%)を大幅に下回っている。

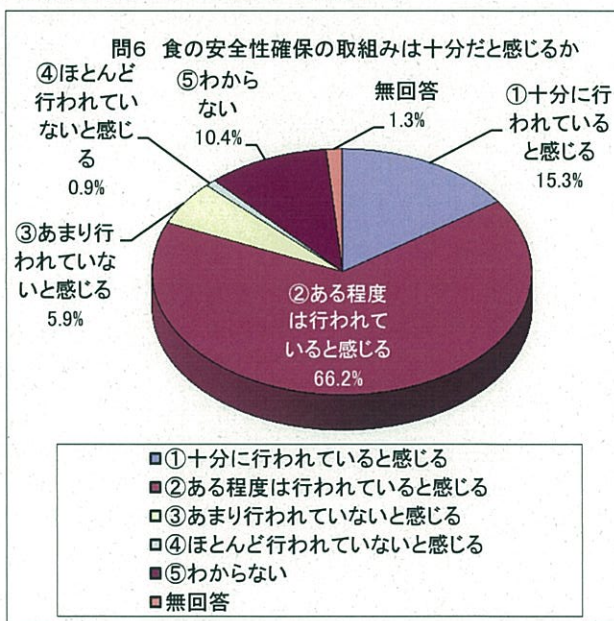
問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



県産食材の購入に不安を感じる理由は、③農薬や添加物等食品そのものの安全性(60.4%、前回59.4%)が最も多く、次いで②産地偽装等の偽装表示(37.8%、前回44.4%)、土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(37.8%、前回31.4%)となっている。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組みが、十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

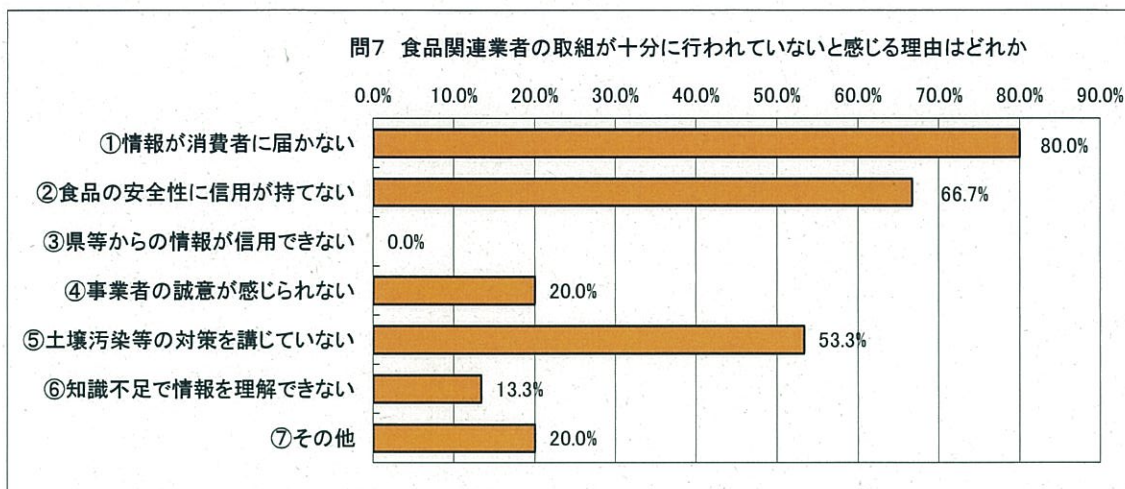
①十分に行われていると感じる	34
②ある程度は行われていると感じる	147
③あまり行われていないと感じる	13
④ほとんど行われていないと感じる	2
⑤わからない	23
無回答	3
計	222



安全性確保の取組みが行われていると感じる人の割合は、全体の約8割(81.5%、前回80.8%)となっており、県内の食品関連事業者の取組みについては概ね理解されている結果となった。

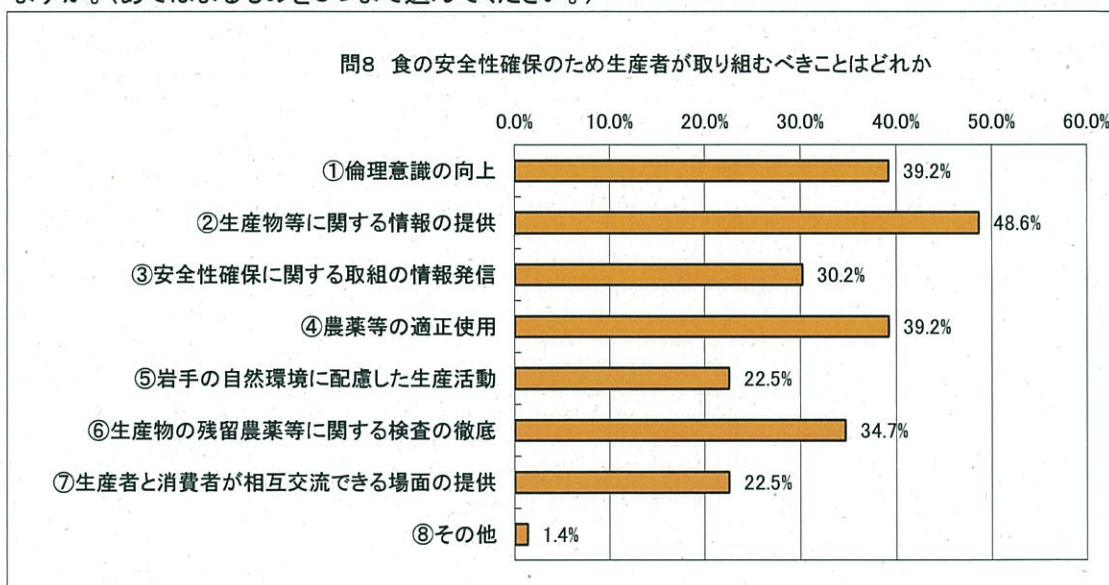
問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きします。

あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



安全性確保の取組が十分ではない理由は、①情報が消費者に届かない(80.0%、前回64.7%)が最も多く、次いで②食品の安全性に信用が持てない(66.7%、前回76.5%)、⑤土壌汚染等の対策を講じていない(53.3%、前回47.1%)の順になっている。

問8 あなたは、県内の生産者が、食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)

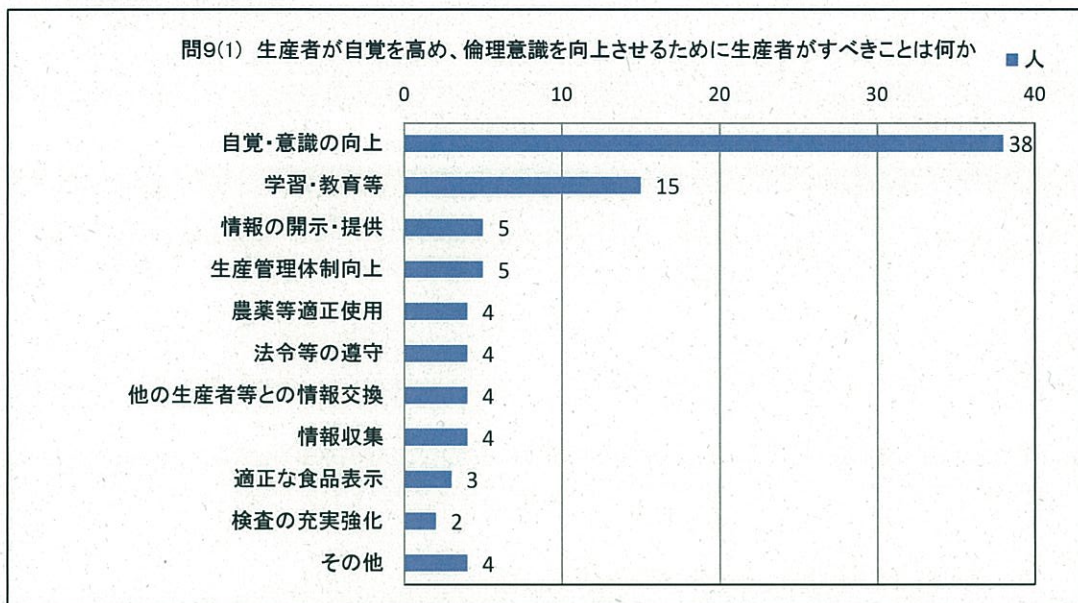


県民が求める生産者の取組は、②生産物等に関する情報の提供(48.6%、前回54.0%)が最も多く、次いで①倫理意識の向上(39.2%、前回45.6%)、④農薬等の適正使用(39.2%、前回61.5%)となっている。

問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

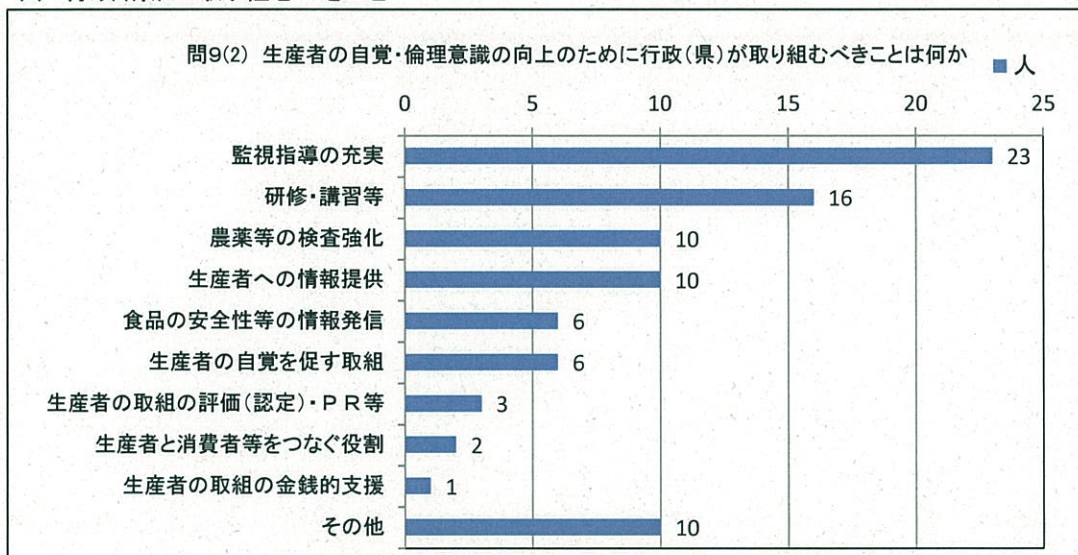
あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



※「その他」の主なもの:食品添加物の無い食品の開発、無農薬品の生産等

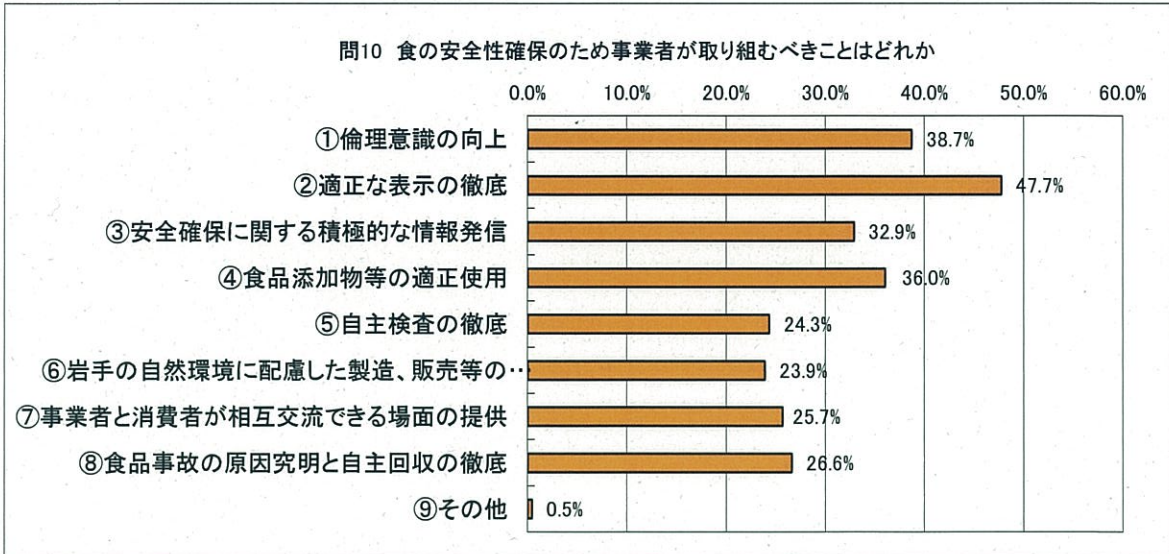
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの:生産者の利益確保、生産者の他産地との交流や競争の両面を支える事業等

生産者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を挙げた人が、このために必要と思うこと(自由記載)を分類すると、生産者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関するものが最も多く(38人)、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(23人)、研修・講習等に関すること(16人)が多い結果となった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



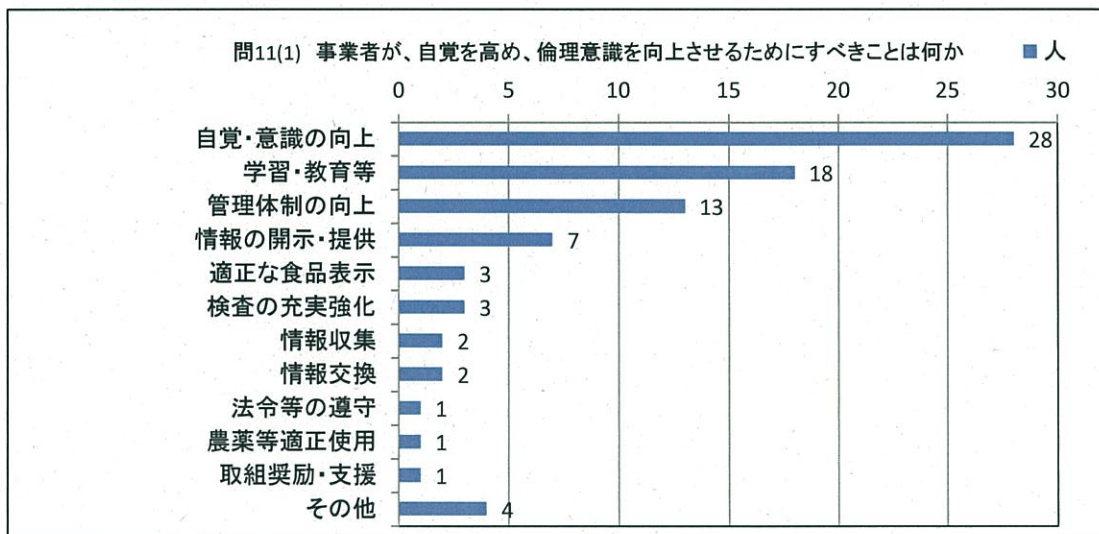
※「その他」の主なもの：食品添加物を使わない食品の開発、無農薬食品の開発、安全安心の配慮の為の学習等

県民が求める事業者の取組は、②適正な表示の徹底(47.7%、前回63.2%)が最も多く、次いで①倫理意識の向上(38.7%、前回35.1%)、④食品添加物等の適正使用(36.0%、前回48.5%)、③安全確保に関する積極的な情報発信(32.9%、前回37.2%)の順となっている。

問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

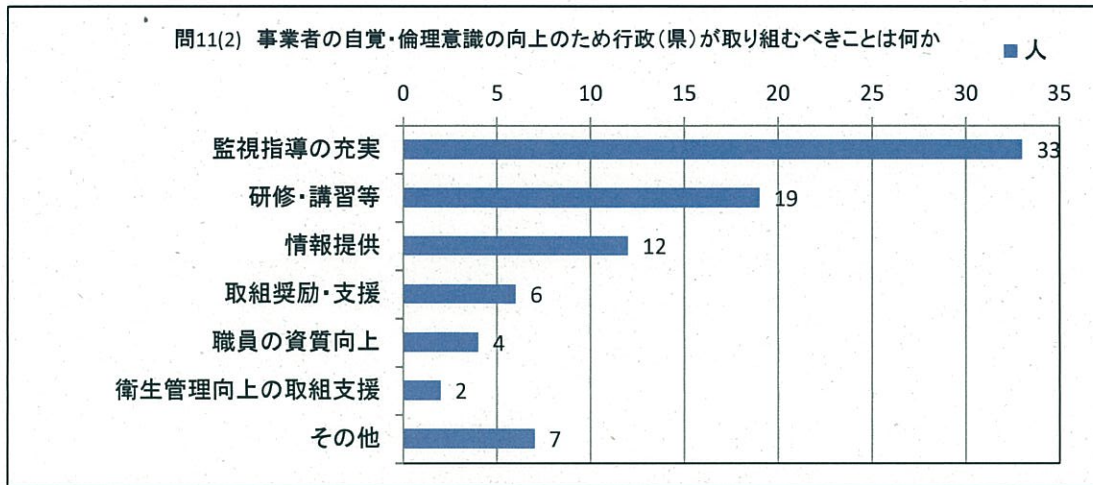
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思いますか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



※「その他」の主なもの：事業所内での考え方や方向性等の共通理解等

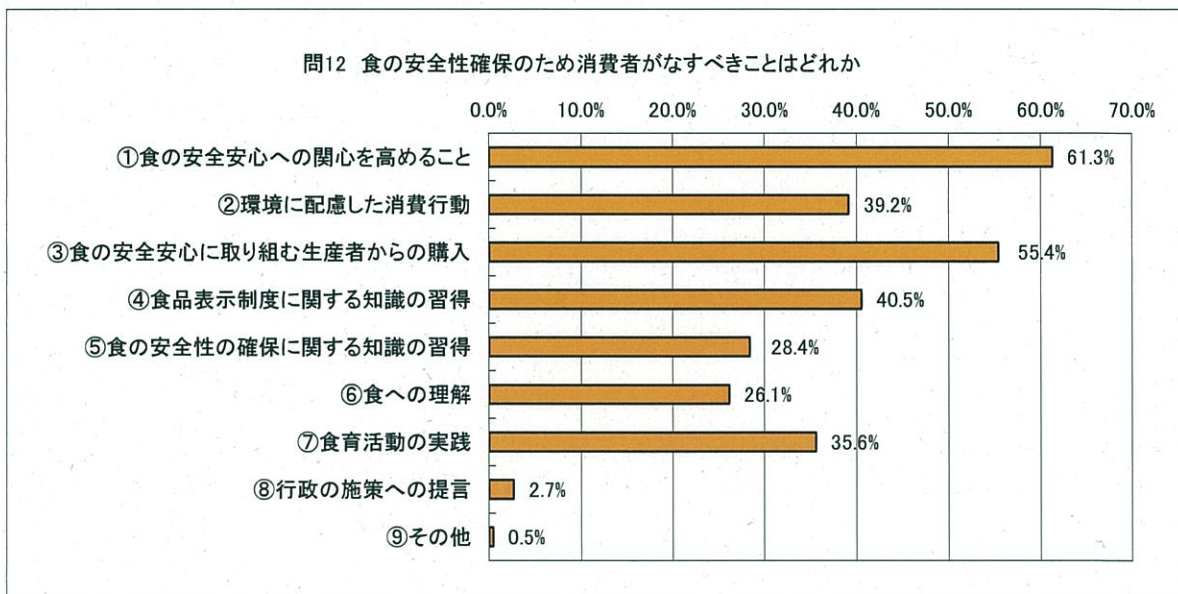
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの:事業所の安全に対する取組のランク付け等

事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を挙げた人が、このために必要と思うこと(自由記載)を分類すると、事業者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関すること(28人)、学習・教育等に関すること(18人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(33人)が多い結果となった。

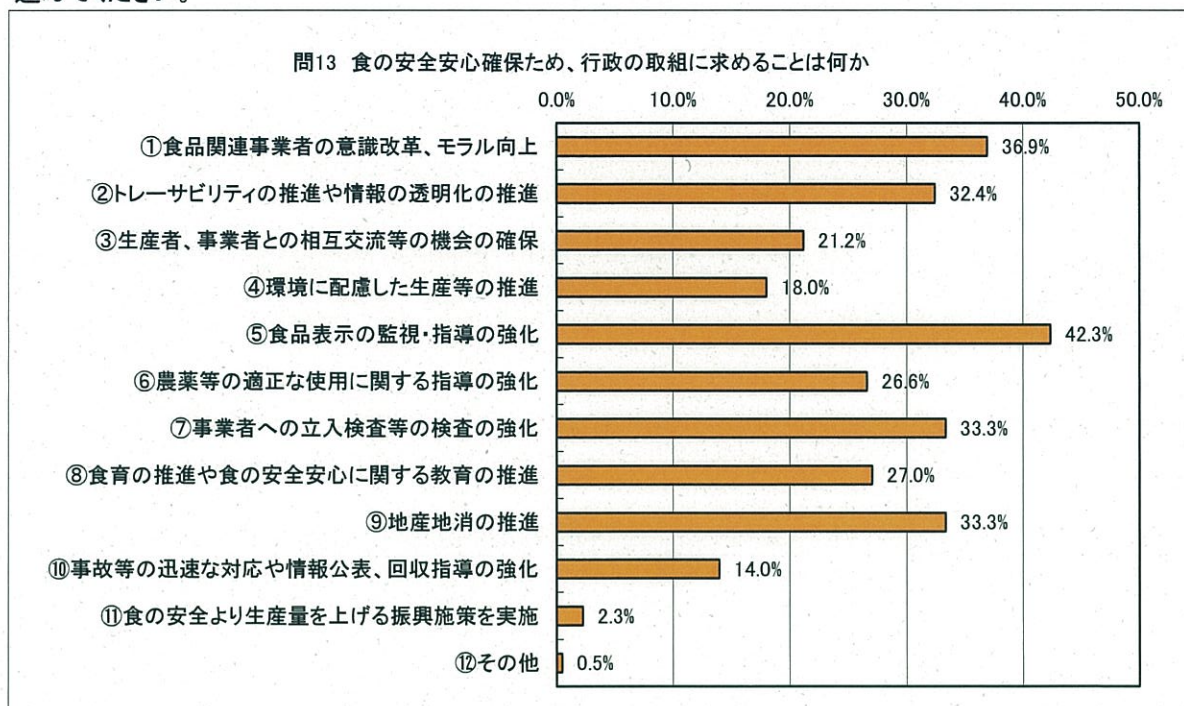
問12 あなたは、食の安全性の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:3010運動の啓蒙、高い物を買う等

消費者がなすべき取組としては、6割程度(61.3%、前回66.9%)の人が①食の安全安心への関心を高めることを挙げており、次いで③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(55.4%、前回46.0%)、④食品表示制度に関する知識の習得(40.5%、前回45.6%)の順となった。

問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何か。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：消費者を中心に考える、生産者の生活の安定等

行政の取組に求めることは、前回調査と同様に⑤食品表示の監視指導の強化(42.3%、前回46.9%)が最も多く、次いで、①食品関連事業者の意識改革、モラル向上(36.9%、前回43.1%)、⑦事業者への立入検査等の検査の強化(33.3%、前回43.9%)、⑨地産地消の推進(33.3%、前回24.7%)の順となっている。

問14 食の安全安心について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	生産する側として食の安全第一で作っていますが、消費者は質で買うのか、量で買うのか？添加物については消費者は知識を広げてほしい。
2	子どものうちから食の体験を行う。地産地消の体験を世代交流を兼ねて行うことが岩手の次世代への継承となる。
3	販売店などの正しい表示。食品などのごまかしのない配列。
4	できるだけ地産地消を心がけている。
5	情報だけに頼らない。
6	中国産は何を使っているのか、人を騙して表示していることが多く、とてつもなく恐ろしい。産直、道の駅に毒キノコを置いていたり、あれは絶対あってはならない。
7	大規模経営体(生産・製造元)を国は推進しています。ともすれば、利益優先され、安全安心が後回しにされる感があります。生産、製造されている物が基準を満たしているのか監督、管理ができるか不安です。今までも食品事故が起きてからの対応になっているように思います。
8	なるべく国産のものを買うようにしている。
9	身近に生産者があり、日々安全、安心な食材の生産に取り組んでいる姿を見えています。そこからの信頼というもので、安心して食することができます。
10	残留農薬や放射能は論外ですが(当然、排除されているものとして)、食品添加物や遺伝子組換え食品の毒性と害をもっと一般の人々に知らせるべきでしょう。
11	県産食材を信じています。食の安全の確保をこれからも続けてほしいと思います。
12	生産地を気にし、加工品の原料は何か、使用薬品を見ているが、あまりにも字が小さく見えない。表示をもう少し見やすくしてほしい。また国産品だからといって値が高いのでは。もっと消費者が声を出す場がほしい。
13	最近、メディア等で食の安全について情報が錯綜し、その信憑性に疑問があります。(例えば、ある食品添加物を摂取したとしても体から排出されるので、人体に影響がないという説は果たしてそうなのか…)
14	簡単な食事に移行している若い世代、安心安全の意識を全ての人が取り組む。
15	なるべく地元の食品を買うようにしている。それは生産者の顔が見え、どのように作っているか知っているから。
16	消費者はもっと寛容になるべき。(産地直売等、野菜等の品質に対して)
17	ひと昔に比べて、食の安全安心に対する関心の高まりからか、放射能汚染等に対し、社会全体が過剰に反応しすぎているのではないかと思うことがある。(ただし、適切なレベルでの情報提供、公開は必要)
18	岩手県産のものを使用したカフェやレストランが増えているので、安心して利用できます。
19	近所のキュウリ農家はベトン病対策にかなり農薬を使っている。「食べる時にはタワシでゴシゴシ洗ってから食べるように」と言って出荷できない物をいただく事があるが、買った人たちはさっとしか洗っていないのではないかと思います。消費者も食品に対する知識が必要だと痛感する。
20	肉類等に産地が表示しているが、信用して良いのか。生産者が直販しているが、少々見栄えが良くなくても買う。
21	スーパーなどどここの店でも中国産の野菜加工食品が多くみられるが、農薬等人体への影響はない食品なのか不安に感じることがある。
22	産直で買い物をするのですが、調理場がどうなのかが見えないので、加工品は安心して買えない。
23	輸入食品の安全性の不安。
24	食に関わる事業者、とりわけ飲食事業者は、価格競争激化の中、販売消費拡大に奔走して安全安心がおろそかになっているのではないかと心配である。
25	地域によって、上下水道整備が行われていない状況がありますが、その環境の中で、畜産や生産が行われている場面を見ていると、生活排水、環境汚染は生産物に影響がないのか気になります。
26	中国産の食材については、買わないようにしています。
27	学童保育の子供達のおやつは、できるだけ食品添加物や合成着色料等を使っていない、素材を生かした手作りの物を提供してほしい。
28	大型店などでは、年々価格の安い外国産の食品の占める割合が多くなってきているが、不安があり、できるだけ地産地消を心がけている。岩手の食品は安全、安心と誰もが言えるよう指導の徹底をお願いしたい。

29	普段、生産国、県や添加物などを見ながら買い物をしていますが、忙しい時などはストレスに感じることもあり、安全であれば安心につながるものなのでしょうか。
30	生産者・食品関連事業者・消費者・行政が一体となって、それぞれの役割責任を今一度認識し、連携、情報を共有しながら、食の安全安心の確保に全力で真剣に取り組んでいただきたい。
31	最近、農業について気になります。どんな農業がどのくらい使われ、それが体にどう影響するのか、など
32	農業、食品添加物の使用量が野菜他の食品の表面からは分からない。そこに不安を感じる。
33	事業者は、利益を優先するあまり本来の食が失われつつある。
34	肥料や農薬など、生産過程に必要なものに関して安全なものを使用しているのか。出来映えだけではなく、工程も大切。水質も心配。
35	減塩についての質問がなかったので残念に思います。岩手県は脳卒中の死亡率が全国で一番なのに。
36	加工食品の材料原産地が本当か、JIS工場で加工された物か。
37	輸入品を意識し、食を無駄にしない行動をとること。
38	肉類など、海外のものが国産より多く出回っているが、やはり国産のものがおいしい。海外の動物と餌が違うらしいので、どんな物を食べさせているのか不安。
39	常にこの食品は安全かを考える。
40	安全安心のためには国産がベストなのですが、収入の都合で中国産を口に入れなければならないのがとても残念に思います。
41	輸入食品は本当に安全なのか、とても心配です。国産、県産の生産量を増やす。
42	自分がよく勉強し、納得できる食生活を営むしか方法はない。地産地消や家庭菜園で食材を購入し、入手している。得体の知らない食材や外国製品は購入しない。加工食品は利用しない。
43	農産物を作る時、多量の除草剤を散布しているのを見ると買いたくない。
44	食物アレルギーの子供が増加傾向にあるが、アレルギーを除く食品での料理教室や勉強会などでできれば参加してみたいです。
45	放射能汚染による孫達への影響。
46	食品偽装の問題などよくニュースで見かけますが、岩手の食材は信用し、なるべく地産地消を心がけています。子供にも関心を持ってほしいことなので、食の取組には力を入れてほしいです。
47	スーパーでお弁当や惣菜を買います。パートをしている方に聞いたら食中毒が出ないように消毒液を多量にかけているそうです。食中毒は出なくても少しずつ薬が体にたまり、病気になってしまうようで心配です。古い惣菜はお弁当に入れているそうです。
48	無農薬を選んで購入している。
49	公的基準や自主検査等バラバラな基準で、本当にそれが安心なのか分からなくなってしまうのではないのでしょうか。
50	安全安心とは別ですが、スーパーなど食品部門での過剰包装、惣菜のプラスチックでの個別販売など、どうにかしてゴミ減量につながる方法はないかと思うときがあります。
51	若い母親たちに食の安全のお話をしたところ、食に対する知識のなさ、意識の低さをとても感じました。子供たちに安全な食品を与えるためにも意識を高めてほしいと思いました。
52	農業や家畜のエサの安全性や、取水する河川の汚染状況。
53	生産者(工場)の衛生面(環境)、安全面をチェックすること。
54	生産者名、国内、国外かを確かめる。どの商品でも国内の物を買っています。中国の物は買いません。
55	行政の方々も雇用を抱えた事業主に厳しくは対応できないのだと思いますが、問題が起きてからでは遅いと思います。
56	生産者も消費者も安全な食へのこだわりをもっと持つべきだと思う。
57	サービス品やサンプル品の提供物が高いので、子供に満足に食べさせられない。地域のイベントでお振る舞いしてほしい。
58	日本産以外、特に中国産と表示されていると買うのをやめる場合がある。今まであまり中国産には良いイメージがないので、それだけで判断しているところもあるが、やはり不安。

59	独居老人のため、食の安全安心には報道等を通じ留意している。
60	食品としての安心感が大切だと思う。
61	食の安全安心は必要なことだが、社会があまり過敏になっていると感じる。その結果、多くの食品が必要以上に廃棄され、大切な食資源を失っている。これも現代社会では仕方ないか。
62	食品添加物が必要以上に多く含まれていないか？
63	ウクライナや途上国でも食べる身としては、日本はしっかりしていると思う。
64	県産品は他のものより安心安全であってほしいと願っています。
65	まだ、放射性物質による生産物の出荷規制が野生きのこにかかっているようですが、規制はまだまだ続くようならば不安です。
66	命と健康は規則正しい食からと考えている。近年、農薬、危険添加物、汚染輸入食品が多く、虚偽表示にも不安である。地産地消が安心と思っている。台所を担う者として、情報と知識を高めていきたいと考える。
67	産地が書いてないものがあったりする。
68	もっと米をたくさん食べてほしい。価格を下げたら？TPPがどうなるのか？
69	輸入米は全部禁止にしてほしい。
70	可能な限り岩手県内の物を購入したい。
71	消費者は生産者を信じて購入するということを自覚してもらいたい。
72	まだ田舎の方(地方)は、三世代とか大家族の生活があり、昔ながらの安全な食育は培われていると思いますが、個食に偏った食事(主婦の家事時間が少ない)、インスタント物などが多く、メディアの食べる番組の放送等、おいしさよりの騒動番組で少々ウンザリします。
73	食品関連事業者の意識改革とモラルの向上が必要。
74	学校における「食」の教育の確立。
75	輸入食材の不安感、特に中国からの加工食材。
76	県の食材については、最初からの安心感があり日頃から私や周りの知り合いもよく買います。その安心感を当たり前のこととしないで、大切に守って、さらに情報公開していけば、もっと購買力が高まると思います。
77	関係各所の検査は適正に行われているか？
78	朝ごはんを食べない児童生徒が多いとか。よって授業中に居眠りし、勉強が遅れイラつく子が多いそうです。親も子も朝ごはんだけはきっちり食するよう指導すべきと思います。
79	防腐剤が入っていると、食品本来の味と全く変わること一般消費者が知らないことの怖さ、特にイカの塩辛を食べるとよく分かります。県として減塩を推進していますが、強力に推進すること。無添加、無農薬食品の開発推進指導。セルロースナノファイバーから食品の開発はできないか。
80	消費者自身が食の安全について(添加物等の危険性、農薬)知識を持つこと、深めることが大事。さらに、安全な食品を提供している生産者の商品を購入することで、生産者を支えることも必要。
81	食の安全、ここ数年放射線の問題やBSE問題で揺らいでいる。生産者・行政・事業者は、それぞれの役割を果たし、消費者に良質な食品を提供するという高い意識と倫理感を持って消費者にもものを提供してほしい。
82	食品添加物の知識を広めることが優先だと思います。スーパーなど大量の食品から安全なものを選ぶ知識がないと、安価なものを手に取ってしまいます。小麦粉など海外からの残留農薬を使ったパンやショートニングの危険性があまりにも知らされていない。メーカーとの関係もあり、正しい知識が封じ込められています。ダイエツトシュガー等人口甘味料の危険性について知らされていません。アスパルテームの毒性があるにも関わらず、多くの食品に使われている事実を広めることが大事だと思います。国民の無知からくる罪によって子どもたちの未来が脅かされています。
83	県産食材の放射性物質による出荷制限についてもう少し、多くのポイントで調査し、早く、解決してほしい。同じ市内でも線量が少ない所もたくさんある。
84	ガイドブックなど学校、生徒への配布の他に、スーパーなどに設置するのはどうか(幅広い方々へ見てもらえるように)。
85	食品添加物等の表示に気を付けて見ている。

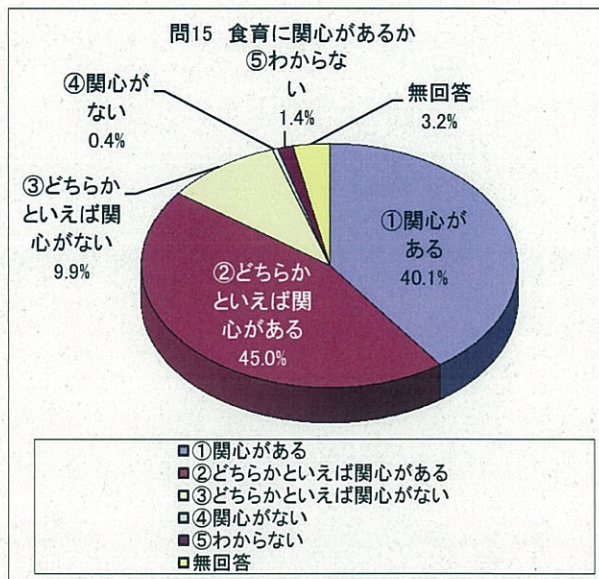
86	産直に行って地場産野菜をできるだけ購入しているが、農薬表示をもっとしてほしい。
87	放射性物質と鳥インフルエンザ、また、火災による農作物の被害により、せっかく安全安心を心がける生産者の意欲がなくならないように。
88	「安心・安全」という言葉(活字)は、各界各層のあらゆる所で使われ、一人歩きしている。「食」に関しては、安全なんだという錯覚に陥っている感がする。生産、流通(販売)、消費者は更なる精進を要する。
89	「安全な物を食べたい」という消費者のごく基本的な欲求に、企業は応えているのだろうか？消費者が食品添加物を避けたいと思っても、十分な情報開示がないとそれは不可能になる。だから、情報開示だけはきちんとしてほしい。知らないものは選べないのだから。
90	例えば、「杵つき」といえば「杵」と「臼」でついた物を想像しますが、実際はロボットによる数回程度コネた事象、「手打ち」といえば最初から最後まで「手」で打ったものを考えますが、実際は途中、数回程度手でこねる…このような事実を改めてほしい。
91	農家の方が愛情かけて育てた野菜など、私は安心して食べています。
92	相互(生産者と消費者)信頼と自主責任が不可欠なのではないか。
93	自分でも体に良いものを選べるような目利きになりたいと思います。
94	心身ともに健康に過ごすための条件の一つに、食育はとても重要なことだと思います。良い食をとるためには、地域の人や生産者など、たくさんの人と関わることで食だけのつながりだけでなく、得られるものがあると思います。
95	放射性物質(原発事故由来の)、農薬、ダイオキシン、遺伝子組み換え食品など子どもたちが心配です。
96	ダイオキシン、農薬、放射能の問題など、若い子たちのためにしっかり取り組んでほしいです。
97	これからも引き続き、放射性物質の検査及び公表(岩手日報などで)をしてほしいです。
98	中国の生産物に関して不安を感じる。ニュース等の番組で食品に関する考え方のズレが大きいと思うことが多々あるが、実態はどうなのか。韓国や台湾では放射能汚染ということで、東日本の農産物輸入制限しているが。
99	生産者が安全のためこうしています、という動きを製品に表示してほしい。
100	中国製のものは残留物が心配なので、買わない。
101	正しい賞味期限の徹底。産地を偽ったりすることがないようにしてほしい。
102	輸入の食品の安全性が不明確なのであまり購入しないようにしていますが、国内でも加工会社の偽装のニュースも多く、信用できないものが増えているのが残念です。
103	国内の物は安全だと思っている。
104	賞味期限の見直し→食品廃棄の削減
105	食品表示を信頼し安くておいしい物を購入している。
106	産直が増え、生産者の名前が明記されることで一つの安心感を覚えている。
107	海外のものの安全性がわからない。地元の食材を購入することに努めている。
108	中国からの輸入食品は絶対購入しないこととしているが、食の安全が確保できないものは禁輸措置を講じるよう国に求めたい。
109	ニュースでは常に問題が出てくるので、不安なものは買わない。
110	添加物等の有無をラベル等でチェックしている。
111	自身の理解不足もあるが、添加物・農薬の使用がきちんと行われているか、また安心・安全な物が本当に使用されているか、不安になるときがある。
112	賞味期限は本当に正しく表示されているのか不安になることがあります。特に生ものや肉類。
113	安すぎる食品が流通していることが怖い。

114	健康を維持する上で、一番大切なことだと思います。なるべく添加物のない食品を購入するよう心がけています。
115	あまり神経質にならないことも必要です。生産者の苦労を理解してあげることも大切です。
116	県産の食品は安くて安全でおいしいと信じている。具体的な表示があると分かりやすいと思う。
117	輸入食品の安全性、食品の放射性物質による影響が心配である。
118	健康生活につながる基本的な日々の「食」に対して、一人一人がもっと関心を持たなければいけないと思う。幼児期からの暮らし教育がなかなか難しい時代になってきていることを感じます。
119	安全安心とは離れますが、食べ物を残したり廃棄されたり「もったいない」の意識が薄れているように思います。大事に消費すれば安全安心の意識向上につながるかも。
120	産直、道の駅、センターの商品は安全安心だと思っていましたが、販売員の方に聞いてがっかりしました。
121	青果など日常の食品は地元の市場や産直を利用し、極力地元の物、店を利用している。地元の下支えに少しでもなればと考えている。
122	子供の離乳食を始めて、食の安全性を考えるようになりました。添加物の多さに驚いたり。県産ブランドなど名があるものには体に悪いものが使われていないかチェックすることも必要だと思いました。
123	偽装などを生産者がやってしまうと、何か重大な問題が起きない限り分からないので、怖い。
124	食材の産地偽装などのニュースを見聞きすると、自分では留意し購入していても、どこまで信用してよいものか、ときどき不安になる。
125	県産品地元の品を買うようにしている。信頼があり、安心です。
126	他の県のものよりは安全と信じ、岩手県産を購入している。
127	消費者はどうしても受身的であり、事前に防衛することは難しいだけに、行政による指導と監視の徹底が必要。
128	加工品は原材料がどこから仕入れられているのか追うことができないケースが多いため、製造が国内だとしても食材は海外産である事が多くて不安を感じることもある。スーパー等の鮮魚コーナーで魚の名称が通称を使用しており、本来の名前でないことなども不満に感じる。(ししゃもなど)
129	農業県として、食の安全安心を生活や観光の魅力・資源として高めていきたいものです。
130	輸入肉に比べて、国内産や県産肉は割高になっていることが多い。もっと県産肉の普及を促進するため、畜産農家のサポート体制を強化するなどの施策を強化し、安心安全な県産食品を安く入手し、豊かな食生活を楽しめるようになることを望む。 (一例として肉を挙げたが、野菜や加工食品など県産食材全般に共通することである。)
131	食に関しての過剰な関心と、家族に対して食に関する過度な規制には注意しなければならないのではないかと思います。心にゆとりがなくなるという不安がある。
132	岩手県産の食品は安心して買うことができます。特に野菜は心配ありません。魚介類の加工品は心配な面があります。産地の記載がほとんど書かれていません。
133	値札表示や産地に疑問がある。表示がおかしかったりするが、店側や企業側は回答もせずあいまいである。また、行政の規定や指導も不明確など、商品以前に製造販売指導する側の人的な問題が気になる部分。
134	基本的に生産者の方は自分自身も口にしている物なので、食の安全性については十分に認識されていると思います。一部、ルール違反がある度に規制→工数up→コストupになるのを日々工夫を凝らしてのりきっているのではないのでしょうか。これは安全ですよという表示は浸透しつつありますが、継続して工夫をしてほしいものです。
135	生産者各自の食の安全に対する自覚を持つように日頃から情報収集に努める。
136	ママ友との買い物話をすると、安ければ輸入品や県外産のものを買うと聞く。安心できて、県産品の値段がもう少し手頃であれば買うのかもしれないと思う。産直では安いのが、スーパーで陳列されたものは高いと感じる。
137	テレビなどで紹介される県内の行事の中で、衛生面でまだ不十分な対策がある。
138	食の安全安心については、安全安心が当たり前という認識があり、事件が起きて初めて関心を持つため、日ごろから食の安全安心について意識することが必要ではないか。
139	食の安全は基本だと思います。
140	日本産を探して食品を購入しようと思いますが、安くとか冷食の野菜ともなると、中国産が多く、不安に思います。できれば 国産を購入したいのですが、商品がないのが現実です。

141	食の安心安全については、行政や生産者に任せるばかりではなく、消費する側が学ぶことがとても大切だと思う。(効果があいまいな食べ物に飛びつく消費者の問題など) しかし、消費者が学んでも、表示に嘘や間違いがあれば意味がないので、行政は、生産者に対して表示の徹底を促したり、虚偽があった場合は是正し、一定の罰則を与えてほしい。
142	急進的環境保護団体や利己主義的なマスコミを中心とした過剰なまでのゼロリスク信仰に対して、行政はそれらに関与したり踊らされることなく、自ら積極的に科学的知見に基づいた情報発信や啓蒙活動などを行うことで、生産者及び消費者の保護育成に努めてほしい。
143	なるべく安全な物を見て購入しています。
144	岩手県産の食材は安心して食べています。安全であると確信し、信頼しているからです。外国産であっても、やはり値段の安さが目につき、購入してしまうこともあります。基本的には国産、それも岩手産があれば積極的に購入するようにしています。
145	栄養士をしています。食べられない子供たちがいます。いくら保育園や学校などで食育を行っても、家庭環境の影響が大きいと感じます。食べられない子供たちは、お菓子が主食であると思います。アレルギー対策が徹底されていない。我々(栄養士、調理師等)が理解していても子供たちへ給仕するのは、先生方。全くアレルギーの怖さを理解していない場合がある。アレルギーの種類も知らない人もいます。食品のアレルゲンの表示義務を徹底してほしい。製造業、飲食業、食品加工(調理)への指導を望みます。
146	生産者、消費者の信頼関係の確保だと思う。 利益を追求しすぎると安全が脅かされ、また、利益がないと生産者として成り立たず、いろいろな補助金の支出等も必要ではないかと思われる。
147	多少の不安を感じつつも、安価な食品を選んでしまっているのが一般消費者だと感じる。 特売というサービスも消費者の意識を薄れさせている要因かと思う。 時間がかかるが、生産者・流通・消費者、監督者の意識向上が第一。 実家でシイタケを栽培しておりましたが、震災の影響で閉じました。 やはり、一旦信頼が薄れてしまうと、消費者の意識というのはどうしても上がらないものだと痛感しています。 岩手県産なのに中国産に負けるというのは悔しいと思う。 行政だけではなく、流通や販売者も一緒になって今後も継続的に取り組んでいただきたいです。

問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

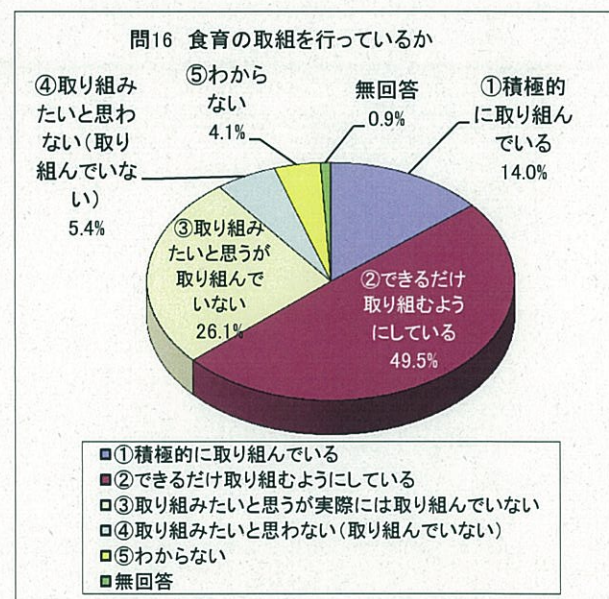
①関心がある	89
②どちらかといえば関心がある	100
③どちらかといえば関心がない	22
④関心がない	1
⑤わからない	3
無回答	7
計	222



食育に関心がある人は85.1% (前回89.5%) であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

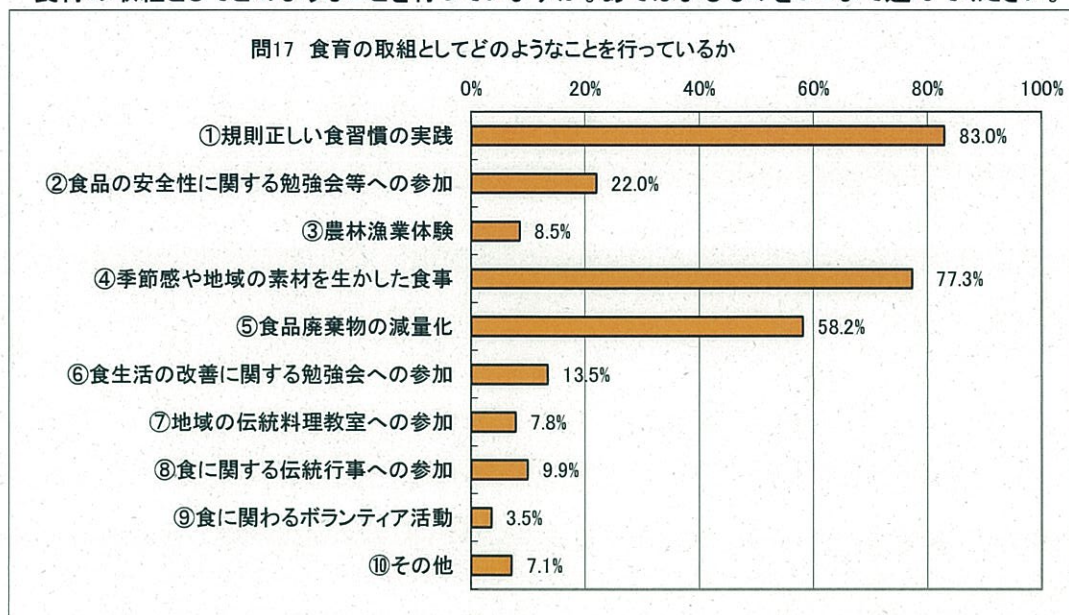
①積極的に取り組んでいる	31
②できるだけ取り組むようにしている	110
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	58
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	12
⑤わからない	9
無回答	2
計	222



食育の取組を行っている人の割合は63.5% (前回66.1%) である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が約3割(26.1%、前回28.9%)に上り、引き続き、食育の重要性について周知し、取組を促すことにより、食育の取組みの拡大が期待できる。

問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。

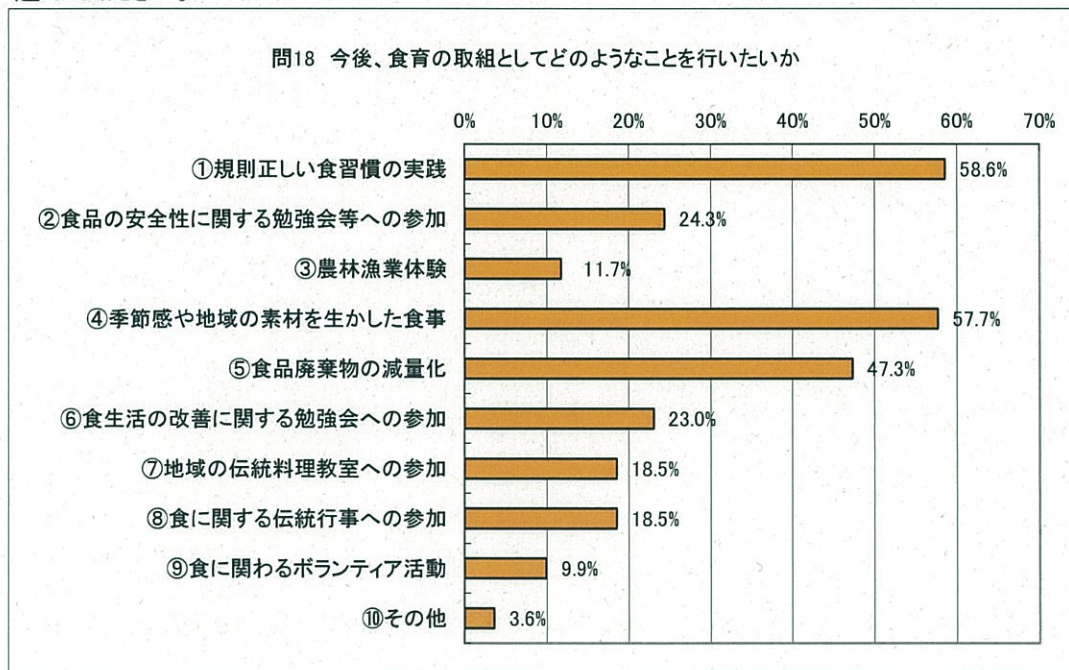
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: 保育園での実践、機会あるごとに若い人達に「食」に関する思いを見せ伝えている、自ら野菜などを作る等

食育の取組として行っていることは、①規則正しい食習慣の実践(83.0%、前回80.4%)が最も多く、次いで④季節感や地域の食材を生かした食事(77.3%、前回69.6%)、⑤食品廃棄物の減量化(58.2%、前回60.8%)の順となっている。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

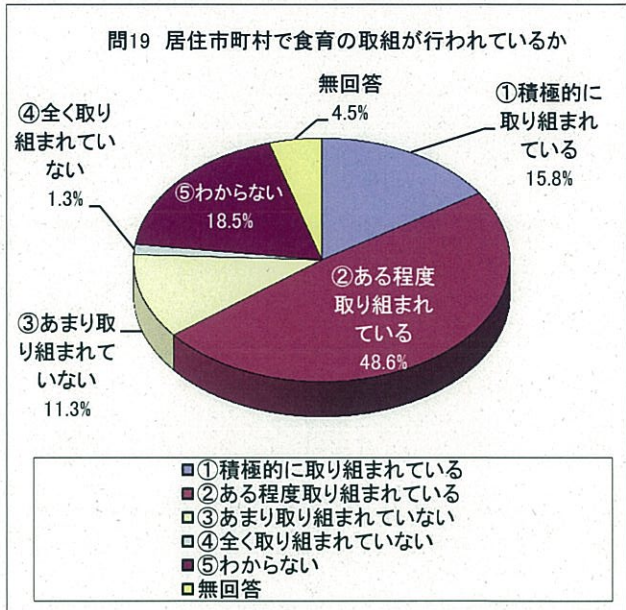


※ 「その他」の主なもの: 子や孫に自分の手をかけた食事を提供する、家庭菜園、子や孫に知識を伝える、食事ができることに感謝する心を育てる等

今後、食育の取組として行いたいことは、実際に行っている取組での回答と同様に、①規則正しい食習慣の実践(58.60%、前回54.0%)が最も多く、次いで④季節感や地域の素材を生かした食事(57.7%、前回51.9%)、⑤食品廃棄物の減量化(47.3%、前回45.2%)の順となっている。

問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

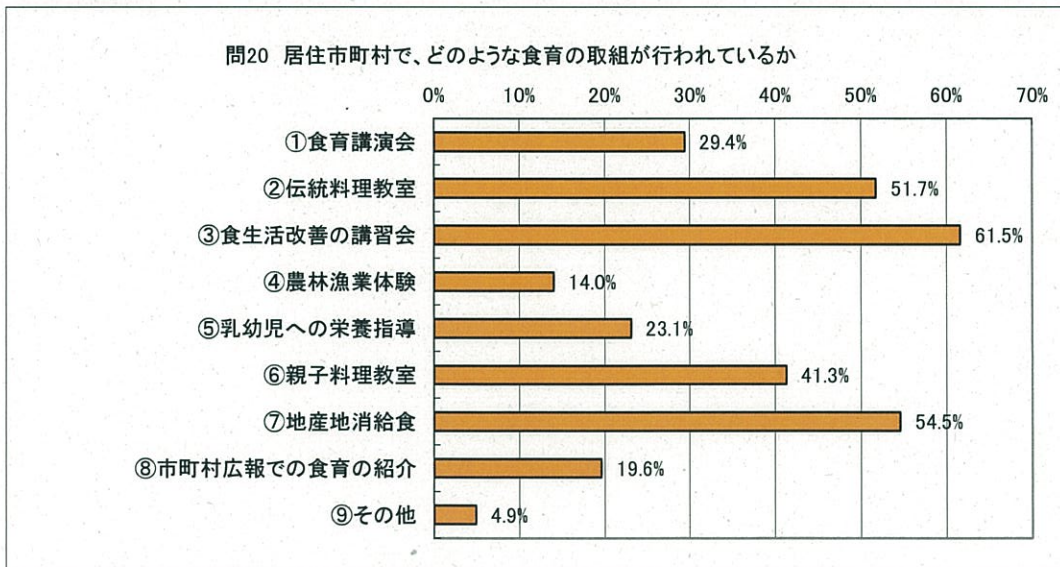
①積極的に取り組まれている	35
②ある程度取り組まれている	108
③あまり取り組まれていない	25
④全く取り組まれていない	3
⑤わからない	41
無回答	10
計	222



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は64.4%（前回62.8%）と前回より増加した。また、取組の有無が分からないという回答が18.5%（前回25.1%）と前回よりも減少している。

問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きします。

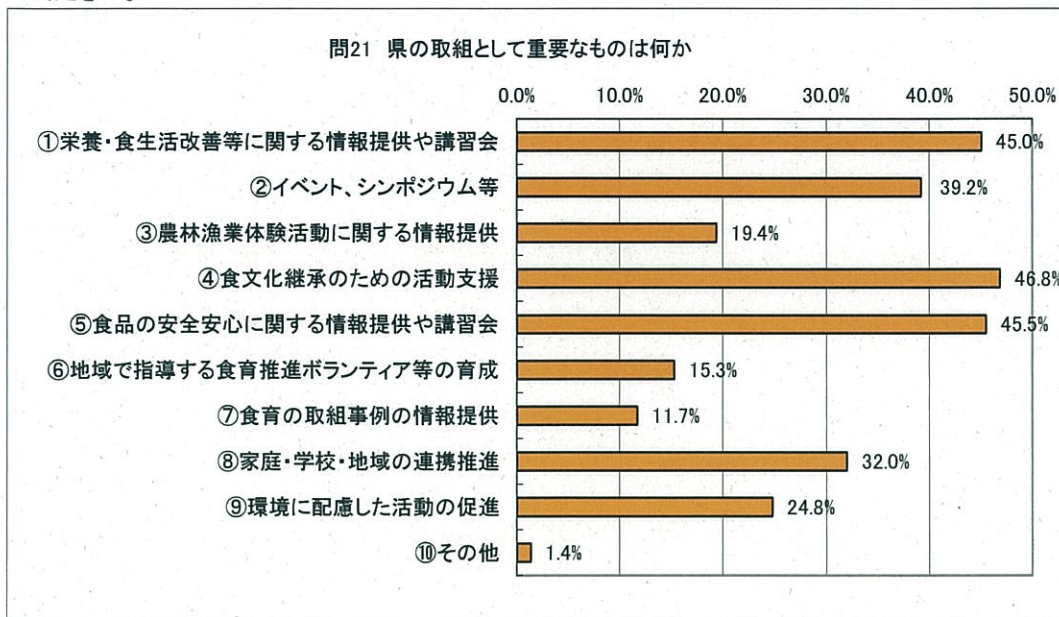
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：男の料理教室、分からない等

居住市町村の食育の取組内容は、③食生活改善の講習会（61.5%、前回53.3%）が最も多く、次いで⑦地産地消給食（54.5%、前回47.3%）、②伝統料理教室（51.7%、前回52.0%）の順となっている。

問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



県の取組として重要なものは、④食文化継承のための活動支援(46.8%、前回46.4%)が最も多く、次いで⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(45.5%、前回41.0%)、①栄養・食生活改善等に関する情報提供や講習会(45.0%、前回40.2%)の順となっている。